

高齢者用肺炎球菌定期予防接種について

●肺炎球菌感染症とはどんな病気でしょう・・・

肺炎球菌性肺炎は、成人肺炎の25～40%を占め、特に高齢者での重症化が問題になっています。侵襲性感染症（髄膜炎、敗血症、肺炎など）を起こすことがあり、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎の起因菌となることもあります。

脾摘患者、無脾症、リンパ腫などの患者では重篤になることが知られています。

●予防接種の効果とワクチンの特徴は・・・

肺炎球菌による肺炎の重症度と死亡のリスクを軽減させます。我が国では、現在、頻度の高い**20種類**の肺炎球菌から作られた、より有効性の高い**20価肺炎球菌結合型ワクチン**を定期接種ワクチンとして使用しています。

●副反応は・・・

20価肺炎球菌結合型ワクチンの主な副反応として、局所の疼痛・圧痛（59.6%）、腫脹（1～10%未満）、紅斑（1～10%未満）が認められます。また、全身反応としては、筋肉痛（38.2%）疲労（30.3%）、頭痛（21.7%）、関節痛（11.6%）などがみられることがあります。

重い副反応としては、**ショック、アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣を含む）、血小板減少性紫斑病**が報告されています。

●予防接種健康被害救済制度とは・・・

定期予防接種により健康被害が発生し、厚生労働大臣が、予防接種と因果関係があると認定した場合には、市長が健康被害に対する給付を行う救済制度があります。

●予防接種を受ける前に注意することは・・・

【予防接種を受けることができない人】

- (1) 接種の当日、明らかに発熱のある人（体温が37.5度以上の人）
- (2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 過去に接種液の成分又はジフテリアトキソイドによって、アナフィラキシー(*)を起こしたことが明らかな人

(※)「アナフィラキシー」というのは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗・顔が急に腫れる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気・嘔吐・声が出にくい・息苦しいなどの症状に続き、ショック症状になるような激しい全身反応のことです。

- (4) その他、医師が予防接種を受けることができないと判断した人

【以下の人は、予防接種前に必ず担当医師に相談してください】

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- (2) 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人
- (3) 過去にけいれんを起こしたことがある人
- (4) 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- (5) 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こすおそれがある人

●接種後の注意

- (1) 接種後は自らの健康管理に注意し、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気付いた場合は、速やかに医師の診療を受けてください。
- (2) 接種当日は激しい運動を避けてください。
- (3) 接種当日の入浴は差し支えありません。ただし接種した箇所をこすらないでください。

お問い合わせは、舞鶴市保健センター（☎0773-65-0065）まで